

2025年度柔道ブダペスト世界選手権大会



混合団体 3位
石川県出身

湊田萌生

令和7年6月13日（金）から20日（金）の間、ハンガリーブダペストにおいて「2025年柔道ブダペスト世界選手権大会」が開催され、第2教育課柔道班から湊田萌生（ふちだめぐみ）3等陸尉が参加し、男女混合団体戦で第3位の成果を収めた。湊田3尉は6月20日（金）大会最終日の男女混合団体戦に出場。団体戦は男女各3人の6人制で行われ、日本は世界選手権の団体競技が始まった2017年から大会7連覇中であり、8連覇をかけた戦いとなった。

初戦のオーストリア戦は4対0で勝利し、湊田3尉は続く準々決勝のウズベキスタン戦に出場した。先鋒及び次鋒が破れ0対2となった苦しい状況の中、中堅の勝利で1対2とし、続く三将※女子57キロ級の湊田3尉が世界ランキング20位のアミノバ・シュクルジョン選手と対戦した。世界ランキング20位の湊田3尉は、試合開始早々相手の強い攻撃に防戦を余儀なくされ、指導を2つ受けて後がなくなってしまった。しかし、ここから湊田3尉の反撃が始まった。巴投げ、内股を繰り返すがポイントにならず、再び内股を繰り返した湊田3尉に対し、投げられることに抵抗したアミノバ選手が湊田3尉の軸足を内側から刈る危険行為で反則負けとなり、指導2つの苦しい状況から見事大逆転勝利を収めた。湊田3尉の勝利により2対2のタイスコアに持ち込み、副将にバトンを繋いだ。2連敗からの2連勝という良い流れで副将及び大将も勝利し4対2として準決勝進出を決めた。湊田3尉はこのウズベキスタン戦での日本の勝利に貢献したが、日本は続く準決勝でジョージアに2対4で敗れ3位決定戦にまわった。3位決定戦では敗者復活戦で勝ち上がったブラジルとの対戦となったが、先鋒から負けなしの4連勝。4対0の圧勝で第3位の銅メダルを獲得した。

試合後、銅メダルを手にした湊田3尉は自身の試合を振り返り「今回は練習してきたことが発揮できずに終わってしまった。来年もこの舞台上、個人・団体ともに優勝できるように頑張りたい。」と語った。湊田3尉の更なる活躍に期待したい。

※三将…中堅の次に出場する選手

（写真：国際柔道連盟及び本人提供）



3等陸尉
湊田萌生



TEAM JAPAN

湊田3尉

巴投げで攻める湊田3尉

チームメートと笑顔で
記念撮影をする湊田3尉

